

○議長（牟田勝浩君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を継続いたします。

次に、2番山口等議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまより2番山口等の一般質問をさせていただきます。

あの未曾有の東日本大震災から9カ月の経過がたとうとしております。武雄市もどこよりも早く市民のボランティアを募り、9月末から10月中旬にかけ、岩手県陸前高田市へ5班編成の約100名の方がチーム武雄として、また、武雄市の建設業界でもボランティアチームとして約20名、合計120名の方が現地で活動をしていただきました。

私自身、被災から2カ月後の5月に宮城県仙台市へ、また10月の初めには岩手県陸前高田市へ、このチーム武雄の4班の一員として参加させていただき、いろんな貴重な体験をさせていただきました。そして、武雄小学校、中学校、また地元の長寿会の前にいろんな体験報告をさせていただきました。このようなボランティアの活動の場を与えていただいたことに感謝を申し上げます。

それでは、質問に入らせていただきます。

最初の質問ですが、被災地支援についてであります。

今回、チーム武雄として陸前高田市へ活動したわけですが、ボランティア活動の場所から宿舎までが約50キロメートル以上離れていると、また、所要時間が1時間以上かかるというような状況でございました。できたらもう少し近くに宿舎があれば被災地の経済効果も見込まれ、支援になると思うんですが、このあたりのことを市長はどう思われるか、お伺いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

チーム武雄の皆さん方が宿泊地として定められたのが一関市というところなんですね。一関市から陸前高田市まで近いところで大体45分ぐらいでしたっけ……（「いや、もっとかかる」と呼ぶ者あり）1時間。（「1時間」と呼ぶ者あり）1時間ですね。それで、広田地区とか遠いところになると、そこからさらに30分から40分かかるということになって、これがボランティアをやるにしても、非常に時間のロスだということは多くの皆さんから言われました。

一方で、これは陸前高田市のみならず、いろんなところでこの話というのは出ているんですね。実際、皆さんたちが泊まるといったことになると、そこでお金が落ちる、飲食費等々で落ちるということと、もう1つは交流がまた生まれるんですね。そこに、被災地側からすると、雇用の場が確保できるといったことからすると、そこに宿泊のホテル、宿舎地がないということに関していうと、非常にそれはそれそのものが、ボランティアするにしても、なかなか泊まるところがないということで集まらないというところも聞きます。したがって、我々とすれば、今いろんな話が実は被災地のほうから出ていますけれども、そういう宿泊地、宿泊施設を建てるにもお金が要ります。あるいは、例えば、廃校を利用して、その宿泊地にしようという動きも被災地で幾つかあります。

そういった中で、我々として、例えば、重点被災地応援地区って、今さっき私がつくりましたけれども、言葉として、仙台の若林区は牟田議長を初めとして議会のチーム武雄で行かれたところですよ。それと気仙沼、これは古川知事が県で行くてなって、私どもも県を通じて職員を派遣したところ、それともう1つが陸前高田であります。これはもともと久保田副市長もいますけれども、首長同士でこれは何とかしようというところから始まったところありますので、この3つの地区でどこかでそういう宿泊地をつくと、復興ホテルとなったときに、それはやっぱり応援をするということが応援の一つの形態として僕は求められていると思っています。ただ、出しっぱなしはいけません。出した上で、例えば、ボランツリズムという言葉ができています。これはアメリカでカトリーナが、アメリカの南部に襲来したときにボランティアの人たちがプラス観光で行っているんですね。これが息長く、そして、これは等議員もおっしゃっていましたが、自分たちが行ったところが次にどがんたろうか見に行きたいと、あるいは、もし足りないところがあれば、もう一回最後に応援したいという気持ちからすると、二重、三重にもその宿泊地というのが必要だと。例えば、陸前高田にそういう復興ホテルができ上がったとします。そのときに、例えば、出資額に応じて武雄市民は2割引にしますというふうにして、そうすると、数字的にもこれは5年間でもとがとれますということになった場合には、多分、その寄附をされた方々もそれだったら出してもよかろうもんというのは、武雄市民はみんな優しいですので、そういうことで多分応援をしてくださるんじゃないかなと、あそこにうんうんとうなずいている方もいらっしゃいますけれども、そういうふうに私は思う次第であります。

ですので、今回、震災瓦れきの件で思いましたけれども、やっぱり反対の方々でも、そいぎ、やっぱり何かせんばいかんろうもんていうことをおっしゃる方もいます。ですので、そういう我々は応援の仕方というのをきちんと提示をして、これが一つのロールモデルになるように、全国に広がるようにしていくことが必要なんじゃないかなと思っておりますので、御指摘は、私としては、本当にこれは足りないものをちゃんとつくるという意味では、これは非常にいいことだと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

それでは、今回、我々チーム武雄として、私4班の一員だったんですけど、どういうふうな作業内容をしたか、ちょっと簡単に写真を見ながら説明していきたいと思います。

（パネルを示す）今回、武雄から東北、岩手県まで約1,700キロあるんですけど、そこを行くときに、ちょうど朝8時から出て、朝の8時に着くという24時間のバスの長い旅でした。それで、東北自動車道がここにあるんですけど、そこを宮城県を北上しまして、ちょっと見えにくいと思うんですけど、ここに一関インターというのがあります。そこをおりたところの近くに今回、一関市の宿舎、我々が宿泊をしたところがあるんですけど、それから大体50キロ以上行ったところに陸前高田市のボランティアセンターというところがございます。そこに大体我々が、平日だったんですけど、約300名の方が、そのときは305名だったと思うんですけど、ボランティアの方が全国各地から訪れておられました。それで、今回この陸前高田市の広田町とか大友町とか、こういったところで作業をさせていただきました。

作業内容は、これは初日なんですけれども、水路の土砂揚げですね。これはほとんど女性の方、今回女性の方が裕子議員を含めて7名おられましたけど、こういう方が側溝掃除とか、こういうふうなためますの清掃、こういった作業をしていただきました。

（パネルを示す）ほかの作業としまして、これはまた2日目の作業なんですけれども、草刈り作業ですね。ちょっと丈が高いところの草を刈って、この中にある瓦れきの撤去と申しますか、そういう作業をさせていただきました。これは、草刈り機はこちらのほうから一応持って行って、それを使った状態です。

（パネルを示す）そして、写真の4番ですね、これも水路の土砂揚げ作業なんですけど、こういったところが、重機作業がほとんどできなくて、ほとんど手作業に頼るものですから、こういったところの施工はほとんどボランティアの力が必要なんじゃないかなと思います。

（パネルを示す）それと、写真の5になりますけど、これも側溝整備です。これは、この緑のチョッキが、先ほどもちょっとお話が出ていましたけど、非常に目立ってよかったなと思います。それで、名前をこうつけて、そういった触れ合いもできてよかったと思います。

（パネルを示す）それと、これは写真の最後になりますけど、写真の6ですね。先ほど草刈りの作業の風景があったんですけど、そここのところの瓦れきの収集ですね。ここにはいろんな鉄くず、かわらとか、ほとんどくぎが刺さった状態なものですから、非常に足元とか注意しながら作業をしたような状態です。

こういった感じで車が入りしにくいというようなところがどうしてもあるものですから、手前のほうまで人力で出して、ある程度車に積み込めるような状態まで持っていくような作業を手伝ったわけです。

今回、先ほど言いましたけど、このボランティアチーム武雄はバスで行きまして、大型バス5台を使われましたけど、大体費用的にどのくらいかかったのか、そのあたりをお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

今回のボランティア活動に使いましたバスの借り上げ料でございますけれども、総計で341万2,500円となっております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

そしたら、1台当たり60万円ぐらいになるんですかね、六十七、八万円になるんでしょうか。個人的な負担として、宿泊費が恐らく一万五、六千円ぐらいかかったと思うんですけど、多くの方からこの震災で義援金も寄せられたと思います。こういった義援金を、このようなボランティア活動に実際使えるのかどうか、そのあたりをお聞きします。

○議長（牟田勝浩君）

山田つながる部長

○山田つながる部長〔登壇〕

武雄市がタウンステイ構想ということで、いろんな取り組みを行うということで、市民の方々からたくさんの募金をいただいております。11月末現在で約850万円いただいているところでございます。

この寄附金につきましては、1回6月の補正で予算化いたしておりますけれども、こういうふうないろんな活動に使っていくということで予算化いたしておりますので、今後も必要に応じて活用していきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今回、ボランティアの募集が9月末ぐらいから10月中旬にかけてだったんですけど、ちょうど稲作の収穫時期とかで参加したいけれどもできないというような方も結構おられたみたいなんです。私が参加しましたチーム武雄の4班でも、この前、懇親会等をしたんですけど、ぜひまた参加したいという声があるんですけど、これから先、まだいろんな復興に時間がかかると思います。末永い支援が必要だと思われまますけど、次回の被災地支援の時期はいつごろ考えておられるのか、そのあたり市長、よろしくをお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと答弁に入ります前に、補足が1個あります。

寄附金の850万円という性格なんですけれども、これは一番最初に義援金で来たときに、やっぱり一番足りないのは食料であるとか、あるいは毛布であるとか、本当に生命に直結した、医薬品もそうですけれども、ということで、例えば、私どもは日本赤十字社に寄附したりとかしていたんですね。ですが、そこに対して、実際何に使われよるかわからんとか、いろんな批判が実は寄附者御自身からありました。そのときに、私どもは、これは議会と相談をして、武雄市でタウンステイ構想というのをまずやろうということで、そういった武雄市が独自の事業に使ってもいいですよということ、実際いただいた方に対して全部とは言いませんけれども、きちんと確認をいたしました。そして、私のところにも建設業協会を初めとしてさまざまな団体が、中山鉄工所もそうなんですけれども、さまざまな団体の皆様方から善意の寄附金をお持ちいただいたときに、これはタウンステイ構想に使っていいですよということを使ったときに、ほぼ100%、それは私たちが顔の見える支援をしたいということでいただいておりますので、この寄附金の中で、なるべく市民の皆さんたちに御負担をかけずして、なるべくこれからのその支援も、このいただいた寄附金と当初に1,000万円、議会で一番最初に通させていただきましたので、この枠内でまず支援をちゃんとしていこうということをおもっております。

その中で、先ほど山田部長からもありましたように、必要に応じて、特にこれは議会とよく相談をしますけれども、こういったのに支弁できないかといったことで、例えば、バス代の云々であるとかも、これは一義的に議会とよく相談をして支弁をしていく必要があるだろうと思っております。

そして、答弁に移りますけれども、次にどうするかという話なんですけど、私は基本的に1年に1回がいいと思います。こればらばらにやるよりは、今回よかったのは、建設業協会も入りましたけれども、全部で5班ですよ、5班に1班がこう入って、切れ目なく続いたということで、非常にその引き継ぎがうまくいったということと、やはり陸前高田の市民から私も直接伺いましたけれども、もうごっつい武雄市民のおんさるごと見えた、緑のあいば着た。そうなったときに、ばらばらに行くよりは、そういうふうにとまとめた時期に行ったほうがより心理的にもいいのかなと——お互いですよ、いいのかなというのと、もう1つ、ちょっと反省しなきゃいけないのは、ちょうど3連休のときに移動があったわけですね。そいぎ、渋滞4時間とかになりましたので、そこはさすがに外して、ちょっと切れ目があるかもしれないけれども、外して運用するというにしたいというふうに思っています。

ただ、季節ですよ、じゃ、いつするかということについては、ちょっとまだ考えを持ち

合わせていませんので、実際、これは陸前高田市あるいはほかの被災地になるかもしれませんが、陸前高田市になると思うんですが、いつ必要かということも含めて、事前に話を聞いて、そしてまた、お諮りをしたいなというふうに思っております。

今度、一番きついのは3月の頭だそうです。なぜかという、ちょうど1年になるわけじゃなかですか。春になると、1年は気持ちが強く持てたけど、やっぱりそこが限界だという方々もいらっしゃるんですね。職がないであるとか、家族を亡くしたりとか、だから、みんな1年、来年の3月11日前後を非常に心配されています。ですので、そのときに何らかの支援ができないかなというのは思っておりますけど、ただ、これも行ったは行ったで、余り活用されなかったということになると、かえってお互いにとってよくないことですので、よくアンテナを高くして情報収集をしていきたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

私も、今回2回ほど被災地に行かせていただきましたけど、被災された方のことを思うと、本当に少しでもお役に立ちたいなという気持ちでいっぱいです。

先日、皆さんは見られたと思うんですけど、ケーブルワンでボランティアの特別番組が30分ほどあっておりました。そのとき、一消防団の方がお話しになったのを目の前で私聞いたんですけど、そのときのことを思うと本当に言葉がありませんでした。被災された方皆さんが本当に必死だったんだなというのがよくわかったものです。

そしてまた、体育館の悲惨な状態を目の当たりにしたときは、本当に込み上げるものが出てきて、本当に大変だったんだなということを思ったものでした。

先日、市長が震災瓦れきの受け入れ提案ということを見送りましたけれども、私も実際、現地に行って、いろんなところで瓦れきの山を見るたびに、何とかやっぱり協力してあげたいと、そう思ったものです。また、5月に仙台市の若林区に行ったときに、武雄にもお越しいただきましたけど、大友よし江さんというところを清掃したんですが、そのときにいただいた手紙の中にも、本当、我々だけしよったらもう10年ぐらいかかるという作業を一気にやっただけというように、また改めて思ったときに、本当にこれが震災された方の思いなんだなということで、少しでも協力をしてあげたいなということを思ったものです。とにかく、痛みを分かち合っていきたいと思っております。

個人的な意見になりますが、今回の市長の英断にも私は同感して、ぜひ受け入れ提案をと思った一人です。本当に、復興にはまだまだ時間がかかりますけど、あの瓦れき類がいろんな妨げになっていることは事実だと思います。これから先も、私もいろんな形でぜひ参加して、協力して支援に行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

以上で、この質問は終わります。

次の質問に移りますけど、2番目の武雄保育所の現状と今後についてでございます。

現在、武雄保育所は老朽化が進み、建てかえ等の時期が来ていると思いますが、まず、建物の現状についてでございます。武雄保育所は築何年になるのか、お伺いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

武雄保育所でございますけれども、昭和48年2月の竣工でございます、建築後38年を経過した建物でございます。新耐震基準が施行された昭和56年3月以前の建物でございますので、これまで補修や修繕を繰り返しながら現在運営を行っている状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

先ほどのお答えですと、約40年近く経過しているということですが、先日、私自身が武雄保育所に行きまして、現状の写真を撮ってまいりましたので、まずそれを見ていただいて、説明をさせていただきます。

（パネルを示す）これは、保育所の中の内壁ですけど、ここにアンパンマンがついているんですけど、このところにこうクラックが、非常に大きなクラックが入って、このアンパンマンでクラックを消したような状態、写真の7番ですね、そういう状況でございました。内壁のほうがですね。

（パネルを示す）これは、別の部屋だったんですけど、天井のところの雨漏りの跡の状況です。

（パネルを示す）それと、これは外の壁のひび割れ状態です。これは何かちょっと見たところ、新しいような気もしたんですけど、写真の9番ですね、こういう状況で、結構補修もしてあったんですけど、ちょっとひび等が多いような気もいたしました。

そういうようなところを確認して、ひび割れ等が多く見られて、天井等も一部はがれているところもあるんですけど、先ほど回答の中にもありましたように、耐震基準が施行される以前の建物でもあります。それで補修、補修という状態の中でしのがれているのはよくわかるんですけど、ところで、平成18年度に公立保育所の役割及び管理運営に関する計画ということで作成されていると思いますが、これまでに市として民営化など、どのような取り組みをされていたのか、また、その計画の中で武雄保育所の位置づけ、現状についてお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

馬渡こども部長

○馬渡こども部長〔登壇〕

公立保育所の役割及び管理運営に関する計画は、武雄市の行政改革大綱の基本方針において外部委託の推進が掲げられ、民間での対応が可能な業務については積極的かつ計画的に民間へ業務移管を推進する計画でありまして、その計画に基づきまして、これまで平成17年に東川登保育所と西川登保育所の民間移管を、それから平成20年には朝日保育所、朝日第2保育所、若木保育所の民間移管を実施してまいりました。また、計画書の中で武雄保育所の今後のあり方として、公立として現保育所近くに移転改築する、市内全保育所のセンター的機能を持つ保育所として整備する、障がい児保育など、特別保育及び相談業務の充実を図るとしているところでございます。

なお、これまでも説明をしておりますとおり、平成18年6月に改定いたしました計画書の予定表は平成22年度までの表として作成しているもので、平成22年度までに移転改築するという計画表ではございません。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。かなり辛口で申し上げます。

この計画は内輪向けの計画なんですよ、やっぱり見ると。その当時に確かに身分保障として公務員の職員の保育士ですよ、保育士の皆様方の公務員としての身分の確保とかということが、結構主要議題の一つとして掲げられていたわけですね。そいぎ、どっちかというぎんた、子どもとか保護者ば見とらんわけですよ。その結果、どういうふうになったかという、公立として現保育所近くに移転新築するとか、あるいは市内全保育所センター機能を持つ保育所として整備するとかというふうになっているわけですね。

今、もう時代は変わりました。ですので、私どもとしては、宮本栄八議員はこども部を怠慢部ていう呼びつけをして、いまだ議決には全く従いませんけれども、物すごい、宮本栄八議員、議論ばしよとですよ。その中で、我々はあなたみたい頭がよくありません。ですので、そういう中で、私たちは考えなきゃいけないのは、この計画を抜本的に見直しをします。今の時代、そして、子どもたち、保護者の皆様方にちゃんと向き合った計画をつくります。その中で、ポイントはやっぱり今、おかしかとは、武雄保育所は正職の公務員と臨時の職員がおんさるわけですよ。同じ仕事ばしよんさつとですよ、なのに待遇が全然違うと、もうここから論理矛盾ですもんね。だから、我々とすれば場所、まず場所です、それと運営形態については先ほど申し上げましたとおり、子どもたち、そして保護者の皆さんたち、私も1カ月前行きました、武雄保育所に。これはかわいそうなことをさせているというふうに思っています。ですので、最良の選択肢となるように原案をつくるようにこども部に今、指示をしています。それが、成案がまとまり次第、また議会とよく相談をしたいと思っています。

そいけん、どこまで公立がせんばいかんとかと、恐らく多くの武雄市民の皆さんたちは、

今回の市民病院の民間移譲に際して、物すごく勉強もされましたし、私自身もしましたし、そのときに、やっぱり思うとは、あの今の新武雄病院を見て、いろんな課題もあるけれども、前の旧市民病院と比べてときにどっちがよかかてなったときに、私はどっちにもかかった患者様からいろいろヒアリングもしました。私が聞いた限り、100%こっちがよかかてなったですね。それはどういうことかというぎ、やっぱり民の民活ですよ、民ができることは民で、そこでどうしても足りない、例えば、保育でいえば病後児保育だったりとか、あるいは障がいをお持ちのお子さんのサポートであるとかというのは民でできない分があるわけですね。そういったところに行政がきちんと支援をするということが私は最も望まれる保育所の、保育園になるかもしれませんけれども、そういったサービスになり得ると思いますので、これは本当に今まで、行政が継続というのはもちろん必要です。ですが、これに拘泥されては意味がありません。ですので、ここは政治の力でもう一回ちょっと考え直そうよということしておりますので、二度と宮本栄八議員に怠慢部と呼ばれないように、我々としては対応していきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

先ほど市長も言われましたけど、現保育所のところは非常に交通アクセスといいますか、非常に今、送迎とかよくされていますけど、園児の安全面から見ても移転する必要は必ずあると思います。それで、現時点でどこか候補地等を考えておられるのか、そのあたりをよろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

場所については定かにはありませんけれども、できれば今の、やっぱり歴史もあるわけですよ、そうは言っても。ですので、なるべく武雄町で、そんなに2キロも3キロも離れたところじゃなくて、1キロか1.5キロの範囲内で適地があればいいなというふうに思っておりますので、こういった場所がありますということがあれば、上田議員はもうそこに絵があられるかもしれませんけれども、ぜひ教えてほしいというふうに思っております。ですので、さっき話がありましたように、もともと建ったときと比べるとやっぱり車での往来というのが、送り迎えもそうですし、だから、その交通アクセスということは物すごく大事になってきますので、そういう観点からきちんとした適地を探すことも、これ計画をこども部がつくるのと同時に適地の確保ということも考えなければいけないと、そうしないと絵にかいたもちになりますので、我々としては、その適地をこれからちゃんと探していきたいなど、かように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

こども部の方が、平成18年度に作成されました計画に沿って事業を行われてきたということは十分わかりました。今の保育所周辺が、今言われたように道路幅員等も狭く、いろんな問題もありますので、子どもたちの安心・安全を第一に考えていただいて、計画書の見直し等を図り、一日も早い新武雄保育所の実現をお願いしたいと思います。

そして、次の質問に移ります。

3つ目の質問ですけど、道路行政についてでございます。

これは2つほど質問をさせていただきます。まずは、市道の維持管理ということでございます。

市道の状況につきましては、山内町におきましては下水道整備が進んでおりまして、その関連で舗装等もよく整備されております。また、北方町におきましては過疎対策事業の促進で道路関係もよく整備されると思うんですけど、しかし、旧武雄市においてはなかなかそういった事業がなく、全般的に道路の路面の傷みが激しいような状況でございます。それで、市としても今年度から建設課の中に維持補修係を配置していただいて、対応していただいておりますけど、その旧武雄市の市道の状況をどのように把握されているのか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

今現在、武雄市内の市道980路線ございまして、約600キロでございます。そのうち、本市における武雄市内ですけど、旧武雄市の舗装補修箇所については約443路線で345キロ程度の補修が必要だというふうに考えております。面積にしますと82万1,000平米です。しかしながら、膨大な数でございますので、当面の補修計画といたしまして、約18キロがちょっと悪うございますので、この分の補修を計画しているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今の説明ですと舗装、補修を要する道路が延長で18キロ、今年度の予算で見ますと大体5,000万円、補修がですね。年間の補修面積は大体1万3,000平米ぐらいだと思いますけど、それで平均幅員が5メートルで換算すると2.6キロしかならんのですけど、それでいきますと約7年ぐらいはかかるという状況です。1平米当たり4,000円ぐらいになりますので、畳1枚補修すると想定したら8,000円ぐらい補修費にかかるわけなんですけど、この補修費の

拡充といいますか、広げられないかと予算的にですね、その辺のお考えをどう思われるか、市長よろしくお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的には、これは補助があります。国とか県の補助がありますので、それをきちんといただくということはもちろんですけれども、これは3年ぐらい前から、等議員が当選される前から実は申し上げているんですけれども、新規に道路をつくるよりは、今あるものを大事に活用するというので、かなりバランスをもう変えてきています。

今までどっちかという、私が市長に就任させていただく前は、その新規の道路の予算というのは物すごく多かったわけですね。ですが、これは前の杉原議長であるとか、今の牟田議長ともここはよく連携をしていますけれども、なるべく今ある道路を長く丁寧に使おうということから、先ほど申し上げたとおり、予算をシフトさせています。その中で、5,000万円というのがあるんですが、これでちょっとさっき話聞いていて、ええ、18キロとかで、あしたも質問せんばばいとかという声も聞こえましたので、これについては少しやっぱりここを拡充する必要があるだろうと思っています。ただ、やっぱり私も訴訟を受けていますので、いろんな本当に不要不急の予算ということも立てざるを得ないということは、それはぜひ、市民の皆さんたちにも御理解をしていただければありがたいと思っていますけれども、やはり道路というのは、利便性のみならず、やっぱり事故が、こういう凸凹で事故も起きたりしますので、それはある意味安全・安心のためにもしなければいけないというのは、それは議員と同じでありますので、この部分というのはスクラップ財源をきちんと見つけて、その部分が確保できたら、そういう維持費というのを拡充してまいりたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

補助金の活用ができるということですので、予算の確保をしていただいて、今言われた安全性を損なうような状況にならないうちに対応、措置をしていただくことをお願いして、次の質問に行きます。

次は道路の路肩部の維持管理の問題ですけど、道路の路肩部の維持管理については、ほとんどが地元で伐採等をしていただいているような状況だと思います。地区によっては、かなりの延長を維持管理していただいているところもあるかと思うんですけど、これから先、高齢化社会とかになって、なかなか負担がかかって大変になると思うんですけど、草刈り機等を使われると思うんですが、その草刈り機等の燃料費を補助できないかということなんですけど、このあたり市長はどうお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

満額かどうかは別にしても、今、地区単位でその燃料費等の、これは山口昌宏議員の質問を踏まえてなんですけれども、確保はしております。その中で、それが従前かどうかというのは、各地区、地区によっても違いますので、それは実際どういうふうに活用されているかというのをまた見ながらしていきたいというふうに思っていますけれども、我々とすれば、きちんと確保はしておりますので、そういった中で、心苦しい部分はありますけれども、そういう意味ではサポートはさせていただいております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ありがとうございます。そしたら、次の都市計画道路についての質問でございます。

今、武雄高架も開通して、駅の北口周辺も非常に整備されて、さま変わりしてきました。しかし、都市計画道路、路線によってはなかなか進まないところもあるんですけど、この都市計画道路とはどういう道路をいうのか、また、その路線の数、道路延長等は幾らぐらいあるのか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

都市計画道路についての御質問でございます。都市計画道路といいますのは、市街地内の道路でございますが、交通配分はもちろんでございますが、防災機能、あるいはライフライン機能と多機能を有しております。そういう市街地内における都市計画法に基づく道路が、都市計画決定されたものが都市計画道路というふうな言い方をしております。

あらかじめルート、位置、幅員などが決められておりまして、計画されている路線上では建築物に一定の制限がかかっております。現在、計画決定された道路は24路線でございますが、35.1キロとなっております。

ちょっとパネルで御紹介をさせていただきたいと思っております。

（パネルを示す）皆さん方のお手元に図面があると思いますが、一応こういう配置といいますか、道路の網になっておるところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

では、そのうち整備済みの延長はどのくらいあるのか、また、進捗率といいますか、そう

いうのは幾らぐらいなのか、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

パネルで御紹介をしたいと思います。

（パネルを示す）これ見ていただきますと、JRの線路から南、下のほうです。こちらは新市街地といいまして開発された道路でございますので、ほぼ都市計画道路は整備が終わっている状況でございます、ほぼです。それから、旧市街地、それから北の線路から上のほうですけど、この路線についてがまだほとんど手つかずの状態の路線が何本かあるような状況です。整備済みの延長といたしましては15.8キロ、整備率といたしましては45%となっております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今の説明ですと、JR高架より北側の路線でなかなか進まないような路線があるかと思うんですけど、その実施見込みのない路線ですね、現在どうなっているのか、そのあたりの考えをお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

再度、パネルを使わせていただきたいと思います。

（パネルを示す）現在、都市計画道路として実施している路線を申し上げたいと思います。まず、区画整理で行っております駅前道路、甘久武雄線という路線を約1.3キロ程度、事業を行っております。それから、温泉楼門のほうに行く道路で松原通りから宮崎薬局のところまで約100メートル程度ですけど、これも行っているところです。

それから、永松川良線といいまして、駅舎の横しに今度新しくつくる道路ですけど、これを実施しております。それから、西浦通りの中野御船山線といいまして、これを武雄市の事業で今行っております。

それからもう1つ、東部地区のところで、都市計画道路名では小楠水谷線といいますけど、この道路を今現在、工事に――工事じゃなくて、事業に着手しております5路線となっております。

今後の見通しでございますが、武雄市街地で問題なのは、やはり周回道路になっていないという道路構成になっておりまして、できますれば、中野御船山線といって西浦通りから、それから温泉楼門のほうに内町迎田線ですけれども、これを整備することによって、一応市

街地の周回ができるということで、環状路線になるということで、これをまず見込んでい
るところでございます。

それから、もう1路線は、将来的に考えてみますと、伊万里方面からの交通量が増加する
という予測を立てておまして、これに付随します武内永島線といたしまして、今川良の方面
から甘久武雄線まででき上がりましたが、残り34号線まで、この区間を整備すれば、当面
それぐらいの見込みじゃないかなというふうに考えるところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

都市計画道路指定ということで、建築の規制が、いろんな規制がかかると思うんですが、
どんな規制がかかってくるのか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

計画路線上の土地につきましては規制がかかると申し上げました。それは、都市計画法第
53条によりまして、建築物を建築する場合には県知事の許可が必要というふうになっており
ます。中身につきましては、建物の階数あるいは構造、主要構造部に制限がかかっておりま
す。現在までに約436件がこれに許可をされて、建築されているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

約50年近く前から計画されているにもかかわらず、まだ全く手つかずの状態にある、実施
見込みのない路線ですね。つまり、長期未着手路線については道路の見直し等がぜひ必要じ
ゃないかなと思います。当初の計画から随分時間もたって、生活情勢も変わり、未着手路線
を見直すことによって、今言われた規制、3階建て以上の建物が建設できるなど、住民の方
の考えも変わり、新たな展望も出てくるかと思うんですけど、市長、このあたりどう思われ
ますでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御指摘のように、大分もう計画が古いんですね。ですので、さっきの保育所の件もそう
なんですけれども、やっぱりこれからの時代、そして今の観点を踏まえて、平成24年度からの
計画については大胆に見直しをしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ぜひ、見直し検証等の作業をしていただきますようによろしくお願ひします。

それでは、最後の質問に移らせていただきます。

旧市民病院跡地の活用でございます。このことは、前回は質問してみましたが、6月1日に新武雄病院がオープンして、この10月1日からは旧武雄市民病院跡地も一部が回復期のリハビリ施設としてオープンされております。まだ御存じじゃない方もおられると思うので、ちょっと写真を使ってどういう状況かということの説明させていただきます。

（パネルを示す）これが10月1日に旧市民病院跡地に開業されましたリハビリ施設の一応看板ですね。こういったところで「新武雄在宅復帰への道の家」ということでされております。

（パネルを示す）これは全景の写真ですけど、これが正面玄関のところですね。こういった形で使われております。それで、現在利用されているのがこの玄関のほうじゃなくて、裏のほう、（パネルを示す）以前言われておった2病棟、3病棟という言い方をされたと思うんですけど、裏の施設、もう1つ裏にあるんですけど、そこを利用されて今事業をされております。

それで、旧市民病院跡地の外来者の受付、正面玄関のところなんですけど、そのスペースは何か市のほうに貸し出して、いろんな形で施設として利用していきたいというふうなことを言われておりました。今、裏のほうのいろんな事業がされておるんですけど、やっぱり正面玄関が潤わないとどうしても寂しいような気がするんですけど、これは6月議会ではいろんな検討会を開催して進めていくというようなことを言われておりましたが、その後の進みぐあいはどうなっているのか、市長にお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は常々、1個前の市長選、4年のうちに3回も選挙しましたので、2回目の選挙のときですかね、旧市民病院は決して廃墟にはしませんということで、何らかの形で、特に福祉部門での活用を考えていきたいというのをずっと自分の公約として掲げてきましたので、そういった意味で本年11月からNPO法人ゆとりさんがこのように活用していただいているということは、私としても本当にありがたく思っております。

その上で、私は何回かにわたって、例えば、婦人会であるとか、老人会さんであるとか、さまざまな団体に今の旧市民病院の活用というのはありませんかねというふうに聞いたときに、やっぱりですね、ほかはどがんしんさんとという話、種目的には何に使いんさんととい

う話をよく聞いていたんですね。ですので、私も心を少し入れかえて、今実際、NPO法人ゆとりさんのこの賃借によるデイサービス事業というのはなかなか利用者がまだ少ないんですね、認知がされていけませんので、そういう状況をきちんともう少し踏まえて、その上で、主はあくまでもNPO法人ゆとりですので、それでどうしても外来棟も含めてなんですが、どういうふうに活用するかというのはもう少し、今の状況を温かく見守った上で同時並行して考えていきたいと、そのときに、きちんとこの場所はゆとりさんですと、この場所はほかに貸しますといったときに、きちんと聞けばいいなど。恐らくこれ議会、いろんな方々がまた、団体の方々も見ておられますので、もしよろしければ、こういうふうに使いたいということをごままた私どもに寄せられればありがたいと思っています。

そして、きょうは川良の区長もお見えですけれども——こんにちは。お見えですけれども、あくまでもこれは前々から言っておりますとおり、川良区の皆さんを中心として武雄町の皆さん方も入ってもらって、そういう跡地活用の検討委員会というのをきちんとつくって、そこで、きちんとした公の場で議論するのが必要だろうと思っていますけど、じゃ、今がその段階かということ、先ほど申し上げたように、今、ゆとりさんがしっかりやろうとしておられますので、もう少し時間を与えていただければありがたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

地元の方の声としては、このような声もあります。今、共働きというのが非常に多いんですけど、母親の方が仕事を持っている場合、小さい子どもがぐあいが悪くなったり、また病院へつれていったら、その後に大したことがなければ、どうしても仕事に戻らないかと、そういったときに子どもを一時的に預かってくれたり、また子どもに限らず高齢者を持った方の家族が一人を残しておくわけにいかんというようなことで、用事で出かけたりされるときもあると思うんですけど、そういったときに、ちょっと出て行って、その間、預かってくれるような施設ができればなというような声もありますので、このあたり、市長どうお考えでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、その声は私も直接入ってきます。ですが、ちょっと2点問題があって、1つが、やっぱりこれをやるてなると看護師の配置が必要なんですね。だから、例えば、保育の事業の一つとして病後児保育の事業であるというふうに大きな事業の一つとしてとらえなければいけないということと、先ほど申し上げましたように、看護師の配置が必要であるというこ

とと、近接要件というのがあります。これをやるときには病院の近くというのが原則なんですよ。ですので、そういった法規制の問題です。運営面の問題と、それともう1つが、これ余り耐震になっているかどうかわかんないですね。ですので、そういったことを踏まえて、これをちょっとの改修でやったりしたときに、その耐震の問題、特に、この前の大震災で非常にこれは皆さん不安がっていますので、それもきちんとやっぱりする必要があるだろうと思っております。やっぱり第1、第2病棟の部分というのは、かなり古くなっているということもありますし、構造上の問題もあるんですね。病院として建てているということで、一般の建物とは少し脆弱にならざるを得ないと、吹き抜けがあったりとかしますので、そういったところも見ていかなきゃいけないということですので、議員の御指摘については、先ほどの保育所、新武雄保育所の部分で保育園という改名になるかもしれませんが、その中でとらえるべき話だろうと思っております。

例えば、さっき少し預けたいとか、日曜日に預けたいとか、そこで少しリフレッシュする時間が必要であったりとか、あるいは病後児保育とかっていうのは、この旧市民病院のその枠内ではなくて、今度新しく、先ほど私が指示したというふうに申しあげましたけれども、その中で考えたほうがより私は現実性があるというふうに思っております。

いずれにしても、先ほど申しあげましたとおり、そういう要望があるということは私も重々承知していますので、できない理由よりできる理由をぜひここで考えてまいりたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

10月から、こういったことでリハビリ施設等も事業開始されて、地元としても少し潤いが出てきたのかなということではほっとしているところです。

いずれにしろ、正面玄関といいますか、そういったところが潤えば、もっと皆さんいろんな活用ができると思うので、一日も早い事業開始に向けて進んでほしいと思います。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

以上で2番山口等議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程はすべて終了しました。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

散 会 14時18分